

【園目標】 明るく元気な子 友達と楽しく遊べる子 よく考えて行動する子	【前年度の成果と課題】 ・ 牧田保育園の環境の良さを取り入れた体づくりの継続 ・ 地域の方に感謝の気持ちをもてる子どもを育てる ・ きらきらタイム（異年齢交流活動）の継続 ・ 危険予知トレーニングを行う
---	---

4段階評価

○保育者☆関係者

観 点		短期目標(評価項目)	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
子 ど も へ の 保 育 ・ 教 育	全 般	一人一人の発達に合わせた援助や遊びの環境を整え、園児の主体性を育む	3.4	3.9	○保育者も遊びの中に入り、同じ目線で楽しんだり、新しいことに挑戦したりすることで、子どもたちの成功体験が増え、失敗しても諦めずに挑戦するようになってきた。公開保育、エピソード記録の読み取りから“こうしていくとよい”“こういう声掛けをしてみてもどうか”など全職員 の思いや考えを出し合い、子ども主体の保育へ繋げていった。週案を記入する中でPDCAサイクルを意識し、次週に繋げるようにした。 ☆園児の年齢、体力、身体能力に合わせ無理のない導き方がされている。少人数であることを活かし、それぞれの子どもに合わせた支援に取り組んでいる。ダイナミックなものからきめ細かなものまで遊びをよく考えられ、自ら動き出せるような環境設定に努められている。
	身 体 的 発 達	牧田保育園の良さを取り入れ、運動遊びや園外保育を通して体づくりをする	3.7	4	○築山やどんぐりの木など園の特徴を活かし、一人一人の発達に合わせた運動遊びを計画的に行った。また、豊かな自然に目を向けられるように園外保育を多く取り入れた。乙坂を除く牧田地区の全園児の家まで長距離を歩くことが出来た。 ○年齢に合わせ、運動器具を組み合わせ体を動かせるようにした。手作りおもちゃを準備し、指先や目と手の協応など発達に必要な遊びを取り入れた。年齢の育ちが保障されるよう分散保育を行った。体幹が育ち、転んだ際にも手がつくようになり、大きなけがなく過ごせた。 ☆ゆったりと園庭を使うことで十分な運動量が保障出来、園外保育も活動量がある。広い園庭は外から見ても活発に遊ぶ姿が見える。
	社 会 的 発 達	同年齢や異年齢の関わりの中で集団生活の約束や必要な言葉を身に付ける	3.7	3.8	○普段から異年齢交流を行っているので、年上への憧れが育ち、年下には相手のことを思いやり声を掛けたり、手助けしようとしたりする姿に繋がった。仲間で嫌な気持ちになる言葉や乱暴な言葉を使わないように、“良いこと見つけ”の時間を作り友達の良さを広めている。 ○保育者が子どもの話をまずは“聴く”ことを心がけることで、自分の楽しかったことや困ったことを伝えられる子が増えた。 ☆読み聞かせで訪れる際、しっかり本の世界に入り込んでいる。ここ最近の子どもたちは言葉で十分伝えることが出来ないことでトラブルに繋がる場面が多くなっている。保育園の時代からコミュニケーションの基礎を養っていく必要性を感じる。
に 子 保 対 育 護 す て 者 る ・ 支 家 地 援 庭 域 等 の	地 保 域 護 と 者 の 支 連 援 携 ・	家族や、地域の方に感謝の気持ちをもつ	3.3	3.4	○登降園時に一人一人の保護者と十分にコミュニケーションを図ることが出来た。地域の方と関われる行事（読み聞かせ、畑、田植え、盆踊り練習、スタンプラリー）等の中で3.4.5歳児は園行事に関わった地域の方の名前を覚え、親しみがもてるようになった。行事の様子は、保護者にも写真掲示やキッズビュー配信して伝え共通理解した。園外保育では地域の方に自分から挨拶が出来るようになってきた。 ☆保育参観では家庭で見れない姿を知ることが出来る。個人懇談では、親身に相談にのってもらえる。 ☆保護者とは、丁寧な情報共有が出来ている。上石津学園とは、離れていても複数園であっても情報共有できるよう連携のあり方を考える。
体 実 制 施 全 運 般 営	危 機 管 理	命を守る訓練・交通安全指導・連れ去り防止教室等を実施し、危機管理体制を確立して園児の安全に努める	3.8	3.9	○様々な訓練をし、保育者の動きを再確認することが出来た。訓練後は必ず反省し、職員間で改善策を出すことで、次の訓練に繋げていった。 ○プール、熱中症等のマニュアルを必ず確認して安全に留意して保育を行った。子ども同士のひっかき、かみつきの続いたので、未然防止に努める。 ☆園児の安全に努めていると思う。園での訓練のおかげで園児も災害が起きた時、どうしたらよいかを考えられる機会となっている。

【次年度に向けて】

- ・ 公開保育・エピソード記録を行うだけにとどまらず、公開保育後どのように環境を再構築し、取り組んだのかを学び合う機会を作っていく。
- ・ 子どもたちが安全に楽しく生活できるようにルールや環境等、職員、保護者、園児が共通理解し、安全に生活する意識を育てていく。
- ・ ノンコンタクトタイムでは、一人一人の発言や行動から、成長に繋がるようなことを話題にできる環境づくりに努める。
- ・ 保幼小連携は、園全体として取り組む。